

# おお大勝利

平成 19 年度山東サッカー部報第 11 号 (8 月 15 日)

サッカー部保護者の皆様、OBの皆様、日頃より本校サッカー部の活動にご理解とご協力を賜りまして、感謝申し上げます。

## プーマカップ、合宿を終えて

8 月 1 日～4 日にかけて恒例の仙台遠征・プーマカップに参加してまいりました。これもまた例年通り日帰りですべて通うスケジュールで、去年と違うといえば、B 戦にも参加した点が挙げられるでしょうか。

今年の予選リーグ(1 日、2 日)参加校は、明らかに昨年のリーグよりもレベルの落ちるチームで、リーグトップに立つチャンスが訪れたとひそかに思っておりました。が、初戦詰めめ甘さがはやくも出て 0 - 1 の敗北。内容からすれば圧倒的だったのですが、自陣ゴールを守り相手ゴールを奪うという最終局面が、勝負でもっとも大切なところ。そこで力を発揮できない弱さが出た試合でした。その後は順調でしたが、リーグ 2 位。2 位トーナメントで 3 日、4 日に臨みました。

2 位トーナメントといえ、集まったチームは山東よりも力が上のチームばかり。そんな中でも、東北学院戦では相手の攻撃をしぶとく防いで、PK 合戦勝ち。相手がシュートを外しすぎたという面はありますが、3 年生相手によく粘った試合でした。また 3 日は宮城スタジアム・サブピッチ、4 日は県営サッカー場とすばらしい環境の中試合をすることができました。

B チームの方は、最初チームとしてのまとめ、攻撃のバリエーションとも未熟だったのが、1 戦 1 戦よくなっていたとの顧問山口の評があり、改めて、参加してよかったと思った次第です。

8 月 7 日～9 日にはまたまた恒例の蔵王川原屋合宿。もう 20 年以上山東サッカー部が合宿を開いているところです。今年は徹底した走り込みによる精神力UPを目指し、メニューを企画しました。辛いフィジカルトレーニングに音を上げるかと思ったのですが、選手はよく頑張り、走りぬいておりました。夜遅くまで起きていたり、酔った顧問の部屋に呼ばれたり(?)で、生活面を含めたサッカー選手としての甘さはまだまだ見受けられましたが、合宿としては成功裏に終わることができたのではないかと思います。

ただ、2 年明石一輝が人差し指付け根を骨折してしまい、小池に続いて二人目の骨折者を出してしまった点が残念でなりませんでした。

合宿に際しましては、保護者会の皆様から激励金を、またOB会や黒田様、武田様(大伸君方)より差し入れを頂戴いたしました。あらためて感謝申し上げます。

# OB戦 はつらつプレーに拍手

8月5日、山東恒例のOB戦が開催されました。上は60代後半から下は卒業したばかりの代まで、幅広い年代のOBが約25名ばかり集まりました。今年は卒業したばかりの代（キャプテン光太郎）とその上の代（キャプテン本間）がしっかり集まり、やる気を見せておりました。引退した3年生や卒業したばかりの代は現役生と真剣勝負、それより上はエンジョイフットボール。

プレーの後は、OB会が振舞ってくださるこれまた恒例のモツ煮込み（佐門）に舌鼓。大量に余る年もあるそうですが、今年はすぐに売り切れ。選手はジュース、OBはビールを片手に思い思いの四方山話に花を咲かせました。